

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590100491		
法人名	医療法人 久幸会		
事業所名	グループホーム保戸野(ななかまど)		
所在地	秋田市保戸野中町6-15		
自己評価作成日	平成28年9月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成28年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成24年11月に9名2ユニットのグループホームとして開設しました。法人の病院、歯科医院、老人保健施設、配食サービス等、医療、福祉サービスの連携がとられ、特に医療面でのバックアップは万全です。
 交通の便の良い、市内中心部の閑静な住宅地に位置し、ご家族の面会も多くみられます。風と光を取り入れた快適な環境の中で、入居者の皆様は穏やかに生活しています。
 入居者の皆様の仲も良く、歌声と笑い声の絶えない温かな雰囲気の中で、自分のペースで生活する人、温かな交流を求めてリビングで過ごす人、様々です。秋田県内各施設の実習生や見学者を受け入れたり、秋田市グループホーム連絡会の交流や勉強会等を通して更に居心地のよい場を提供できるようスタッフ一同取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は住宅街にあり、近隣のコミセンや幼稚園等との交流があるなど地域との繋がりが積極的に行っている。利用者と職員は一緒にお茶や食事をしており、職員はゆったりと落ち着いた雰囲気を作り、利用者は穏やかに良い表情をして過ごされている。職員は笑顔で明るく利用者に接し、全員が参加できるような話題を提供しており、全体にまとまりがある。昼食のおかずは、配食されるものを盛り付けるだけで済ませられるため、職員はゆとりを持って利用者に寄り添って過ごしている。日中は利用者全員で体操や歌、クイズを積極的に行っている。夜間、利用者は眠剤をほぼ使用することなく良眠されている。管理者はじめ職員は研修に興味を持ち、公休でも自発的に沢山の研修へ参加し、その研修で得たことは他の職員へ伝達し全員で共有するなど、職員同士で知識を高めあっている。また、管理者、職員でケアの統一が細かくされており、利用者の不安軽減につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の運営方針と共に理念を作り、玄関に掲示し、出勤時に確認し常に念頭に置くよう意識している。折りに触れ話し合ったり、個々人の理念も構築することで理念に基づくケアの実践を目指している。	法人や事業所の理念を基本として、ホームの職員各々の目標や日々の支援で実行するための手段等を、毎年度作成している。そのほかにも法人が行っている目標、その後の評価、上司からのアドバイスが行われ、日々の支援に意識して取り組めるような仕組みになっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コミュニティセンターの詩吟の会の訪問や近くの幼稚園の夕涼み会に参加する等交流している。地域の理容店が月1回程訪問し、入居者様のカットや顔そりなどを低料金でおこなってくれている。昨年のクリスマス会には地域の住民や他施設の職員を含め57名の参加があった。	近隣の10周年コミセン祭りや、幼稚園の夕涼み会への参加などで地域住民との交流が深まっている。また事業所で行う大きな行事(敬老会や、クリスマス会)では利用者家族や近隣住民、他事業所の職員等参加し、職員手作りのケーキやおやつで賑わい、年々地域の輪が広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	高齢者の健康管理や認知症、介護施設の情報等を運営推進会議の参加者を通じて発信している。また見学に訪れた方の相談に乗ることもある。認知症カフェにも参加している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設以来、2か月に1回開催している。オープンな雰囲気の中で日々のケアや事業について等報告し、意見交換を行ないサービスの向上に努めている。地域のイベント情報などを聞き、参加している。	事業所の行事へ来てもらったことから、他事業所とお互いに運営推進会議へ参加しあう関係となった。認知症カフェや地域の情報を教えてもらったり、様々な意見をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターの職員には運営推進会議に参加してもらい、意見交換やアドバイスをもらっている。また空き情報の問い合わせや見学希望の紹介などをいただいている。また地域ケア会議に参加し情報の共有を図っている。	地域包括とは、普段から電話でのやり取りや、研修の案内をもらったり、オレンジカフェ(認知症カフェ)に参加している。年に1回の地域包括主催の地域ケア会議では沢山の情報を得ることができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は8時半から17時半までセンサーを設置して施錠していない。気分や状態を見極め早めに対応している。法人内外の身体拘束に関する研修に参加している。見やすい位置にマニュアルを置き、いつでも確認できるようにしている。	身体拘束をしないケアについては、法人全体での研修の他、法人のデイケアや秋田市グループホーム連絡会での研修を受けるほか、管理者も講師として行う予定である。また、職員が他のグループホームで一日仕事をする交換研修をすることで多くの情報を得ることができ、日々の支援へ活かされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外の虐待防止の研修に参加し、常に意識を高め、防止に努めている。認知症の理解を深めるための勉強会などにも積極的に参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内外の権利擁護に関する研修に参加し、職員にフィードバックしている。法人の相談員と共に支援に結び付けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者と相談員と共に説明を行い、理解納得いただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置と、公的窓口の掲示を行っている。面会時等には話しやすい雰囲気を作り、気軽に要望を話してもらうよう心掛け、話し合いながら要望に応えている。	個々の利用者に担当職員がおり、月に一回のモニタリングに合わせ、希望や意見を聞いている。特に意見がない場合でも時や場所を変え、意向を聞くようにしている。家族との連絡手段は電話や手紙やメール等のほか、面会時に希望を聞くようにしている。	管理者は、家族アンケートの実施を予定している。改めて聞く機会を設けることにより、小さなことでも疑問を解消できたり、家族が普段思っていることや提案等を今まで以上に伝えやすくなることが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年間事業計画の作成時やミーティング時等には全職員と話し合いの場を設け、意見を聞き、業務改善や行事等柔軟に取り入れている。職員が法人内の他の施設のよい所を取り入れられるよう訪問の機会を設けている。	新人職員に対して行う交換ノートを活用して、先輩の職員とやり取りをし、疑問の解決等ができています。年一回1月の事業計画作成時には、運営に関しての意見が出されている。夜勤明けの職員も入り、全職員が参加する月に一回のミーティングでは活発に意見交換がされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に自己評価を行い、個々の状況を把握している。それを基に面接を行い、向上心に繋がるようアドバイスがある。新人職員には業務上の不安感を取り除くためにアンケートを活用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数やレベルに応じた法人内外の研修に参加している。勤務がすれ違うため交換ノートを活用し、OJTも積極的に取り入れている。外部研修の情報提供も行ない、参加のサポートをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内3つのグループホームとの交流の機会が多い。また秋田市グループホーム連絡会の勉強会や意見交換会、交流会、合同作品展に参加している。管理者は秋田県認知症介護指導者をしており、研修の実習生の受け入れも行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	1対1で、顔を見ながら話しやすい雰囲気を作り、時間をかけ十分に話を聞くよう心掛けている。初期の段階から信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの出来事等、ご家族が話す事を傾聴、受容する事で、早期の段階から信頼関係を築けるよう心掛けている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事できない事、好きな事嫌いなことを見極め、野菜の下拵え、盛り付け、洗濯干し、洗濯物たみ掃除等、本人の負担にならない家事を共に会話しながら行ってもらっている。終了時には必ず感謝の言葉を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはホーム内での楽しいエピソードを伝えたり、笑顔の写真や手づくりした手工作品を見ていただいている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人の面会や電話、外出、外泊等を積極的に支援している。定期的に友人と本の貸し借りをしている方もいる。家族同伴で馴染みの美容室を利用する女性入居者も2名いる。	利用者の趣味仲間や以前の職場の同僚が訪れたりしている。また、40年通い続けている美容院へも定期的に家族付き添いで出向いている。職員は少しでも昔のことに触れる機会があればと、話題提供するなどして楽しんでもらえるよう工夫している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が良好な関係を築けるよう、常に見守りしている。席の配慮をしたり、共に会話や家事作業ができるよう仲介している。全員がささやかでも和やかな関係を築いている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病棟に入院後も時々顔を出して様子をみさせてもらっている。入院中の家族の方から電話が来て会話をしたり、退居の後亡くなられた家族の方も、帰省毎に思い出話をしに訪問してくれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴やご家族からの情報を通し、日常の会話の中や毎月のモニタリングで本人の希望を聞いている。職員間で話し合いながら本人の立場に立ち、支援に活かす努力をしている。	利用者に向き合うことを重要視し、入浴時に1対1になった場面や、病院、外出時の車中での会話から、利用者の思いを拾い上げている。普段からお茶と一緒に飲んでいる時にも利用者の思いを聞くことができる。意向をうまく話せない利用者については、その方が笑って暮らせるにはどうしたら良いかを考え環境を作っている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人、また担当ケアマネや前施設の職員等から生活歴を聞き、ケースファイルにまとめている。それまでの生活スタイルを可能な限り継続し、自分らしさが引き出せるよう情報を共有している。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや記録物等で現状の把握に努めアセスメントを行っている。また毎月職員全員でカンファレンスを行っている。能力を活かしつつ、安心して、より良く生活できるよう、常に状態観察しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を確認している。また月1回モニタリングとカンファレンスを行っている。職員全員で情報を共有し話し合いの場を作り、それを介護計画に活かしている。	利用者の担当職員が希望を聞いている。希望がない場合でも時間をずらして聞いたりしている。それを管理者が確認し、作成している。行動記録やフォーカスチャーティング、その他細かな情報の記録をしておき、職員は勤務前に確認して、特記事項の申し送りを行っている。受診の際は法人のドライバーが運転するため、職員は付き添いができ、多くの話をする時間が持てている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の行動記録、フォーカスチャーティングを記録している。それを基に申し送りやミニカンファレンスを行い、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の眼科や歯科の受診、商店で買い物をすることもある。階下のパン屋は簡単な気分転換のため利用している。近所の幼稚園の夕涼み会やコミセン祭りに参加している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に協力医療機関等の説明を行っている。希望を伺い、病状に応じて他の医療機関を受診している。受診の際には他部署の送迎車輛の協力を得ている。家族の協力のもと、定期的にかかりつけ歯科を受診している入居者も2名いる。	利用者希望のかかりつけ医を継続している。受診時にはカードックスに利用者の普段の細かな情報が載っており、その他利用者の変化が分かる資料も医者へ提示し、情報交換できている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常よりささいな変化も見逃さないよう状態観察をおこなっている。看護師に状態報告を行い、特変時には相談し、その上で受診している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当の看護師や相談員に、日頃から状態報告をしている。また定期的に情報交換や相談の為の会合を設けている。状態に応じ、主治医、家族、相談員と共に情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で、主治医や相談員を交え、終末期ケアについての話し合いが、もたれている。変化に対しては、主治医、看護師、相談員等と連携しつつ対応している。	看取りは行っていない。ターミナルの利用者は医者や看護師、家族と相談し、法人内の他施設等へ移動、情報提供するなど、退所後のフォローを行っている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の安全管理研修には全員参加している。緊急連絡網と緊急時マニュアルを作成し、いつでも見て確認できる場所に置いている。また迅速に対応できるようシュミレーションを行っている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画を立て、定期的に避難訓練を実施している。マニュアルや連絡網を作成し、いつでも確認できるようにしている。緊急時には3階の職員や階下のパン工房に協力要請できる。	避難訓練はマニュアルが整備されており、それを基に、年に2回行っている。そのほか、各階毎に連絡網での駆けつけ訓練も行っている。	避難訓練時に地域や近隣からの参加は無い。災害は時を選ばず想定外で起きるため、万が一に備えての人手の確保も必要である。今後少しずつ、災害時に地域からの協力が得られるよう期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃か個々の状況に応じ、言葉の使い方や1対1での対応等工夫して行っている。尊厳を尊重した対応に努めている。個人情報鍵のかかる棚に保管し取り扱いに配慮している。	入浴は更衣時から一人ずつ行い、他利用者が入らないよう「入浴中」の札を下げている。トイレ誘導時もそっと声掛けをしたり、利用者の行為に対して「ダメ」などの言葉は使わず支援しており、職員は利用者を尊重して接している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせ、穏やかな対応をして、感情表現しやすい関係を作っている。日々の生活の中から希望を引き出すよう心がけている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	法人内の清掃スタッフや配食サービスを利用することで業務内容に余裕をもたせることが可能になっている。業務優先ではなく、個々のペースや希望に添った支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容のサービスや、法人内の美容院の利用の援助をしたり、希望によりスタッフが髪染めを行っている。個々の状況に応じて、本人の希望する洋服を、季節に合わせて着用できるよう支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切りや下ごしらえ、配膳、後片付け等個々に応じて共に行っている。職員は共に会話しながら食事をし、必要に応じてさりげない援助をしている。外食や行事食、旬の食材や郷土食等も取り入れている。郷土料理の本も活用している。	食事前には誤嚥予防の「健口体操」を行っていた。飲み物は喫茶メニューから、好みのもの選べるようになってきている。配食サービスが休みの際も、希望を取り入れながらメニューを考えている。箸入れを利用者が折り紙で作成して使用するなど、見た目も楽しめるよう工夫されている。料理に興味のある利用者が多く、普段から一緒に調理している。食事は毎回、職員も利用者と同じものを一緒に摂り、和やかな食事風景であった。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し把握している。個々の状態にあわせ、量や形態、食器等に配慮して食事を提供している。好みの飲み物を選択してもらうなど水分量が確保できるよう工夫している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で口腔ケアが行えるよう支援し、不十分なところがあれば介助している。口腔ケア用スポンジ、歯間ブラシ、デンタルフロス等状態に応じて使用している。夕食後は義歯を預かり、洗浄剤を使用している。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、状況に応じて自尊心に配慮しつつ声掛けや誘導を行っている。リハパンから布パンツにパット使用に戻すことができた入居者もいる。	入居後、失禁回数が減少し、紙パンツから軽失禁用パットのみへ移行した方がいる。排泄チェック表で時間を参考にしながら、その利用者にあった様々な声掛けをしている。職員同士で良かった声掛け、良くなかった声掛けの情報共有をし、ごく自然に行動してもらえるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便習慣を把握し、確実に排便されているか記録している。繊維の多い食品、牛乳、朝食前の冷水等を取り入れ、軽運動を行い、便秘の予防に日々努めている。医師と相談し、状況に応じて下剤を使用することもある。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	健康状態を確認し、週に2~3回入浴してもらっている。拒否がみられても、声掛けの工夫や時間や職員を変える等で対応している。時間帯も個々人の希望を取り入れるよう努めている。清拭や足浴等も状況に応じて行っている。	1日に数名ずつ入浴されている。入浴中は歌ったり、職員との会話を楽しんだり、入浴時間長め、一番風呂など、個々の希望に添った入浴を提供している。今後は入浴室への暖簾を検討中など、入浴を楽しめるような工夫を考え、取り入れている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態に応じて、自室でゆっくり休んでいただけるよう配慮している。室温調整や寝具の配慮など室内環境を整えている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を記録し、目的や用法について理解している。症状の変化がないか観察し、変化を見逃さないよう努めている。看護師と服薬確認を行い、受診時のアドバイスを受けている。内服時も個々に応じた援助をしている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や、得意とすること、できる事等を把握しながら、生活の色々な場面で能力を発揮でき、自信と生きがいを感じられるよう支援している。また、毎日体操や歌、手工芸作りの時間を作っている。季節の行事やレクリエーションも積極的に取り入れている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月平均1回買い物や外食、ドライブ等の外出レクリエーションを行っている。その際には、懐かしい店や馴染みの場所等、希望を取り入れるようにしている。また家族と外出する時には事前の準備などに協力している。	午前午後に分かれ、数名ずつ散歩に出かけている。歩きながら草木や花を眺めたり、近所の八百屋で買い物をしたり、近くの病院であれば歩いて通ったりしている。また、法人内のデイケアへは全員が週に1回通い、身体機能の維持・向上に努めている。ラジオ体操も毎朝行い、行った分だけシールを貼るなど、やる気アップできる工夫も取り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	レクリエーションでの買い物時には、一人一人の力に応じて使用できるよう支援している。夏祭りでは屋台で買い物をしている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援しながら電話してもらったり、家族、友人への手紙の投函の支援をしている。家族が遠方にいる方は電話での会話を楽しみにしている様子を伝えることで関係が途切れないよう援助している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々や季節感を味わう飾り物で心地よく過ごせる工夫している。換気や室温調整、湿度調整などをこまめに行い快適な環境を保つよう日々心掛けている。職員は自身がたてる音や声に配慮している。	日中は全員で歌ったり、クイズや体操などをして過ごしている。ほとんどの方が午睡をせず、リビングで利用者同士仲良く過ごされている。テレビも見たくないものが流れないように、利用者の知っている歌などが流れている。利用者間で口論になりそうなときは、迅速に職員が仲介に入り、仲裁している。利用者が笑いながら過ごせるよう職員は雰囲気づくりをしている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファや椅子等を多めに置き、それぞれが気分に応じて過ごせるよう配慮している。離れたコーナーもあり、自由に利用してもらっている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや、思い出の品等本人が見覚えのある物を置き、心地よく過ごせる居室にしている。テレビを置いている人もいる。また自作の塗り絵や飼っていた猫の写真やひ孫の写真等を居室に張っている。	居室の窓からは日が入りやすく、外がよく見える。ベッド、エアコン以外は以前から使用しているもの等が持ち込まれている。ペットや家族の写真等のほか、趣味の物、作業をするための机や道具など、様々である。夜間以外はホールで過ごす。居室内はきれいに整頓されており、夜間でも安全にトイレ等へ歩けるようになっている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで、安全に身体機能を活かせる環境作りを心掛けている。トイレの場所には目印をつけている。居室前に表札をつけることもある。		